

乗務時におけるマスク着用を考える

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症の予防として、国土交通省航空局や定期航空協会からお客様に対して、空港・飛行機内におけるマスク等の着用について「お願い」がされています。

一方、運航乗務員については、各航空会社により若干差異はありますが、整備士や客室乗務員の入室時等のある一定の条件下で着用を義務付けているものの、運航中の操縦席におけるマスクの着用については各人の判断に委ねられています。

マスク着用には「新型コロナウイルス感染症の予防効果がある」という研究結果が最近が目立っていますが、乗務時に運航乗務員がマスクを着用することに関しては、リスクも存在することが分かっています。そこで今回のニュースでは、IFALPA や ICAO の推奨内容やガイダンス紹介を含め、運航乗務員の乗務時におけるマスク着用について考えてみます。

2. マスク着用による感染予防効果

「マスク着用は新型コロナウイルス感染の予防効果がある」という研究報告が増加していることもあって、マスク着用に対する肯定的な意見が多くなってきています。主な研究報告を以下に挙げてみます。

- ・動物実験によるマスクの感染予防効果¹
- ・発症前からマスクを着用していたため、家族への感染を 79%減少させたという報告²
- ・マスクの着用により感染を減らすことができるというメタアナリシス³

日本では新型コロナウイルス感染症が「積極的疫学調査⁴」の対象となっていることから、現状において濃厚接触者となった場合、自主的な休業を余儀なくされる対象となります。その場合でも、マスクを着用することで濃厚接触者と「されてしまう」リスクを大きく下げることができます。

3. 乗務中のマスク着用のリスク

運航乗務員が乗務中にマスクを着用した場合のリスクとして、以下が挙げられます。

- ・ATC コミュニケーションや操縦室内における言語コミュニケーションの阻害要因
- ・火災やスモーク発生時の気付きに対する遅れ
- ・緊急時における酸素マスク着用時、マスクを外す手間が発生することによる時間的ロス
- ・眼鏡やサングラスが曇ることによる視界の妨げ

¹ BMJ Global Health 2020;5: e002794.

² Clin Infect Dis. 2020 May 30; ciaa644.

³ Lancet. 2020 27 June-3 July; 395(10242): 1973-1987.

⁴ <https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/2484-idsc/9357-2019-ncov-02.html>

マスク着用による管制通信における音量や雑音の不具合の報告や、操縦室内で相互会話が聞き取りにくいケースが発生しています。また、緊急時に使用する酸素マスクは、マスクを着用した上で使用する設計とはなっていないため、一刻を争う緊急時においてマスクを外さなければならないことがリスクとなることを認識しておく必要があります。

4. IFALPA の COVID19 Guidance for Crews

IFALPA では Safety Bulletin “[COVID19 Guidance for Crews](#)” (5/14 付) において、乗務中のマスク着用を推奨していません。例えばある海外の IFALPA HUPER Committee メンバ一の乗務員は、「緊急時の酸素マスク着用やその他のリスクを考慮して、乗務時は常にマスクは外している」と述べています。また、機内感染が疑われる事例は世界的に報告されている一方で、その確率は非常に低いことから、多くのエアラインで運航乗務員のマスク常時着用は求められておらず、パイロットの判断となっています。

5. ICAO の Electronic Bulletin と Guidance



International Civil Aviation Organization

Council Aviation Recovery Task Force (CART)

Take-off: Guidance for Air Travel through the COVID-19 Public Health Crisis

Montréal, Canada, 27 May 2020

ATTACHMENT

ICAO は 2020 年 5 月に新型コロナウイルス感染症に関して [Electronic Bulletin と Guidance](#) (右記) を発行しています。

Bulletin (5/11 付) では、安全上の理由で操縦席においてマスクを外す旨が言及されています(注1 参照)。Guidance (5/27 付) では有効な感染リスク軽減策としてマスク着用が言及されていますが、着用することによる潜在的な新たなリスク等についても考慮しなければならないとしています。さらに、マスクを着用した際には酸素マスクが遅滞なく着用できるように正確な指針が示されなければなりません(注2 参照)。

(注1) Electronic Bulletin (6. Pre-flight guidelines 6.5)

In the interest of flight safety flight crew may remove their face mask when they are in the cockpit and the cockpit door is closed.

操縦室の扉が閉じている場合、運航乗務員は安全上の観点からマスクを外す必要がある

(注2) Take-off: Guidance for Air Travel Through the COVID-19 Public Health Crisis

Carriers should ensure that when face masks are worn by flight crew or other crew members etc., oxygen masks can be still rapidly placed on the face, properly secured, sealed, supplying oxygen on demand and flight crew are provided with the correct guidance on how to do so.

運航乗務員や客室乗務員がマスクをしている時においても、酸素マスクを直ちに正確に装着し酸素供給が行われること、また運航乗務員に対してその方法に関する適切なガイダンスを提示することを航空会社が保証しなければならない

6. おわりに

航空会社や機種によって多少の差異はありますが、操縦室において「機長と副操縦士」「先輩と後輩」といった権威勾配 (TAG) が存在するのは事実です。ただ、マスク着用に関しては「機長が外したから私も外す」「先輩が付けているから自分も付ける」といった TAG に惑わされず、自分なりの判断基準をもって行動していただければと考えます。

以上